

1 4 心臓血管外科フェロー研修要綱

心臓血管外科修練カリキュラム

指導責任者 村山 弘臣

基本事項(行動目標)

1. 心臓・血管系の発生, 構造, 機能を理解し, 疾患疫学, 発生要因, 病態生理に関する知識を持つ.
2. 問診, 理学所見に加えて, 心臓・血管疾患の診断に必要な検査を行い, それらを統合して病態を把握する.
3. 病態に基づき, 心臓・血管疾患に対する手術術式を選択し, それを実施する.
4. 患者とその関係者に対し, 心臓・血管疾患の病態と予後, 手術の必要性と方法, 期待される効果とリスクについて説明する.
5. 実施した手術術式が適切であったか評価する.

研修方略

外科専門医未修得者に対する到達目標	
1年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外科専門医修練カリキュラム到達目標1, 2を修得する. ・ 小児の正常な発育, 呼吸・循環生理を理解する. ・ 心臓・血管疾患の病態生理を把握する. ・ 単純な心臓・血管疾患の術前検査(レントゲン, 心電図, 心臓超音波, 心臓カテーテル, RIなど)を総合的に評価する. ・ 心臓血管外科専門医認定機構手術難易度(A)(B)(C)の第二助手, および, 手術難易度(A)の第一助手を行う. ・ 心臓・血管手術患児の周術期管理を先輩医師とともに行う.
2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑な心臓・血管疾患の術前検査(レントゲン, 心電図, 心臓超音波, 心臓カテーテル, RIなど)を総合的に評価する. ・ 年長児開心術において, 人工心肺のカニューレーションを行う. ・ 手術難易度(A)(B)(C)の第二助手, および, 手術難易度(A)(B)の第一助手を行う. ・ 手術難易度(A)の一部の手術を指導医のもとに行う. ・ 心臓・血管手術患児の周術期管理を行う.
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手術難易度(A)の手術を指導医のもとに行う. ・ 手術難易度(A)(B)(C)の第一助手を行う. ・ 心臓・血管手術患児の周術期管理を適切に行う.
4年目～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心臓・血管疾患の総合的評価に基づき, 手術適応, 手術術式を判断する. ・ 手術難易度(B)の手術を指導医のもとに行う. ・ 手術難易度(C)の第一助手を行う. ・ 緊急時に的確な判断ができ, ECMOなど適切な対応ができる. ・ 外科専門医修練カリキュラム到達目標4, 5を行う.

外科専門医修得後の到達目標	
1年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児の正常な発育, 呼吸・循環生理を理解している. ・ 心臓・血管疾患の病態生理を理解している. ・ 心臓・血管疾患の術前検査(レントゲン, 心電図, 心臓超音波, 心臓カテーテル, RIなど)を総合的に評価していく. ・ 手術難易度(A)の手術を指導医のもとに行っていく. ・ 手術難易度(A)(B)の第一助手を行っていく. ・ 心臓・血管手術患児の周術期管理を適切に行っていく.

2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心臓・血管疾患の総合的評価に基づき, 手術適応, 手術方法を判断していく. ・ 手術難易度(A)(B)の手術を指導医のもと行っていく. ・ 手術難易度(A)(B)(C)の第一助手を行っていく. ・ 緊急時に的確な判断ができ, ECMO など適切に対応する. ・ 外科専門医修練カリキュラム到達目標4, 5を実践していく.
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医のもと手術経験を積み, 3年間に手術難易度(A), (B)合わせて 100 件以上の執刀を目標とする. ・ 後輩医師を指導する. ・ 心臓血管外科専門医取得を目標とする.